

混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」初披露

平和の願い歌に込め



「生きとし、生けるものへ」を初披露する合唱団
—長崎市民会館

上田由美子さん

作詞者で広島市の被爆者

戦争や災害による犠牲者を追悼する「レクイエム・プロジェクト」のコンサートが6日、長崎市魚の町の市民会館文化ホールであり、混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」を初披露した。作詞者で広島で原爆に遭った上田由美子さん(79)は「広島市」がステージに立ち、原爆の惨状や平和への思いを語った。

原爆の惨状語る

プロジェクトは、東京在住の作曲家、上田益さん(61)が主宰。長崎公演は2013年から開き5回目。今年も長崎のほか広島、神戸などから集まった合唱団約130人が、約900人の前で計24曲を披露した。

「生きとし、生けるものへ」の合唱の前に、上田由美子さんが登壇。被爆後に看病した女学生が外傷がないのに血を吐き、息を引き取った記憶などを明かした。その上で「世界はいっこうに核廃絶へ向かう気配がない。むなしさを感じるが、二度とこのような事が起きないように訴えなければならぬ」と呼び掛けた。

合唱団は平和への願いや命の尊さが込められた歌詞を、澄み渡る声で歌い上げた。

来場した長崎市丸山町の経営コンサルタント、藤澤雄一郎さん(74)は「美しいハーモニーで、犠牲者の無念さや残された家族の悲しみが伝わってきた。人々が手を取り合い、平和な世界をつくるのが大切だと感じた」と話した。(宮本宗幸)



詩を朗読し、平和への思いを伝える上田由美子さん

被爆